教訓
繪入

ひめ〳〵み

こ

ロ9
1028
3

京都帝国大学図書

ロ9
1628
3

性靈集巻之三

述言第三

興福寺僧綱等請為亡妻造法華経願文

夫聞夫婦人の身は五障の道をのぞむから小学明倫の夫婦は神のつもりしるなり

あるいはつちのひやうぶぎて百の物のひつぢたること女のひまぶつ

つくるあるこころぐるつごまつりとぶ神代のひて天神七代

ちきれ化生して神まれたのをりまるとりまるふ伊弉諾伊

弉冊尊あるとりのたてるとりまるとりまるふ伊弉諾伊

しるの日月の神の神くるとうとおさをの命の神の代より

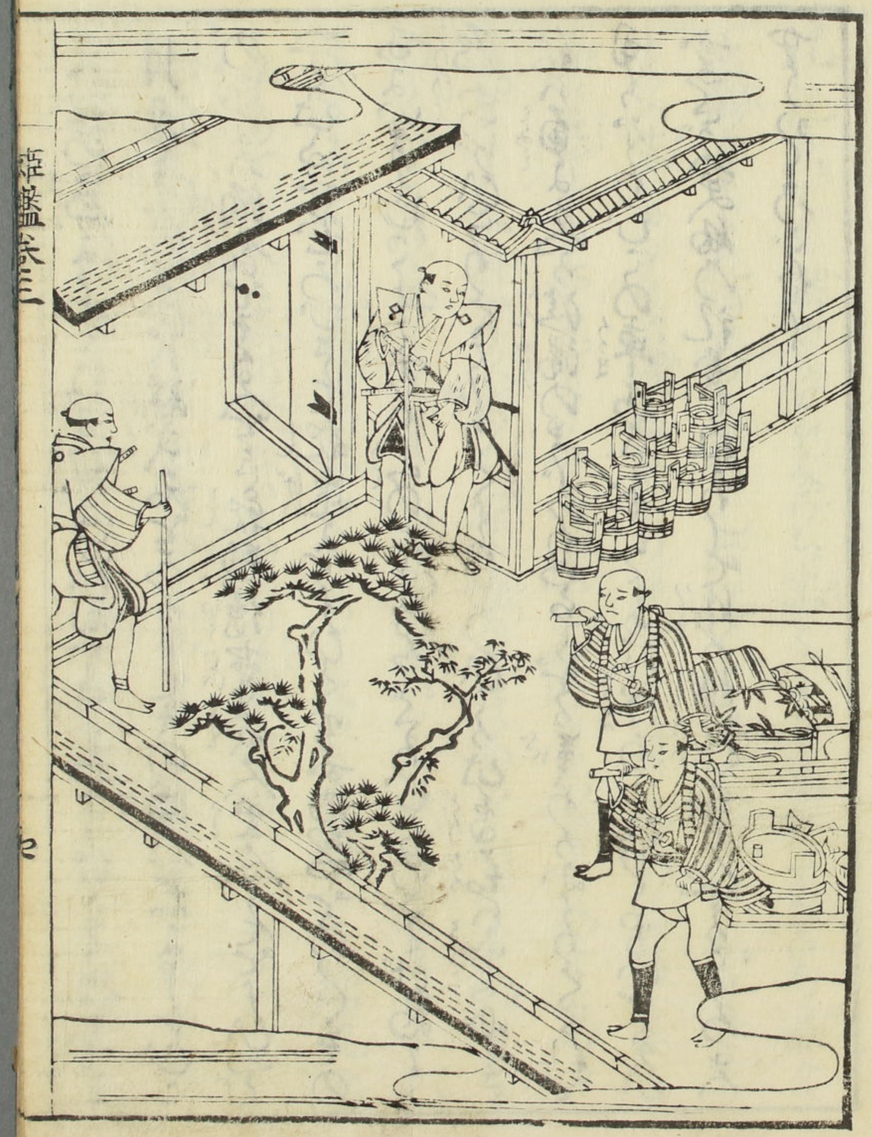
ちりくるその子なるとなりて紀を淮陽いりしひとりなる

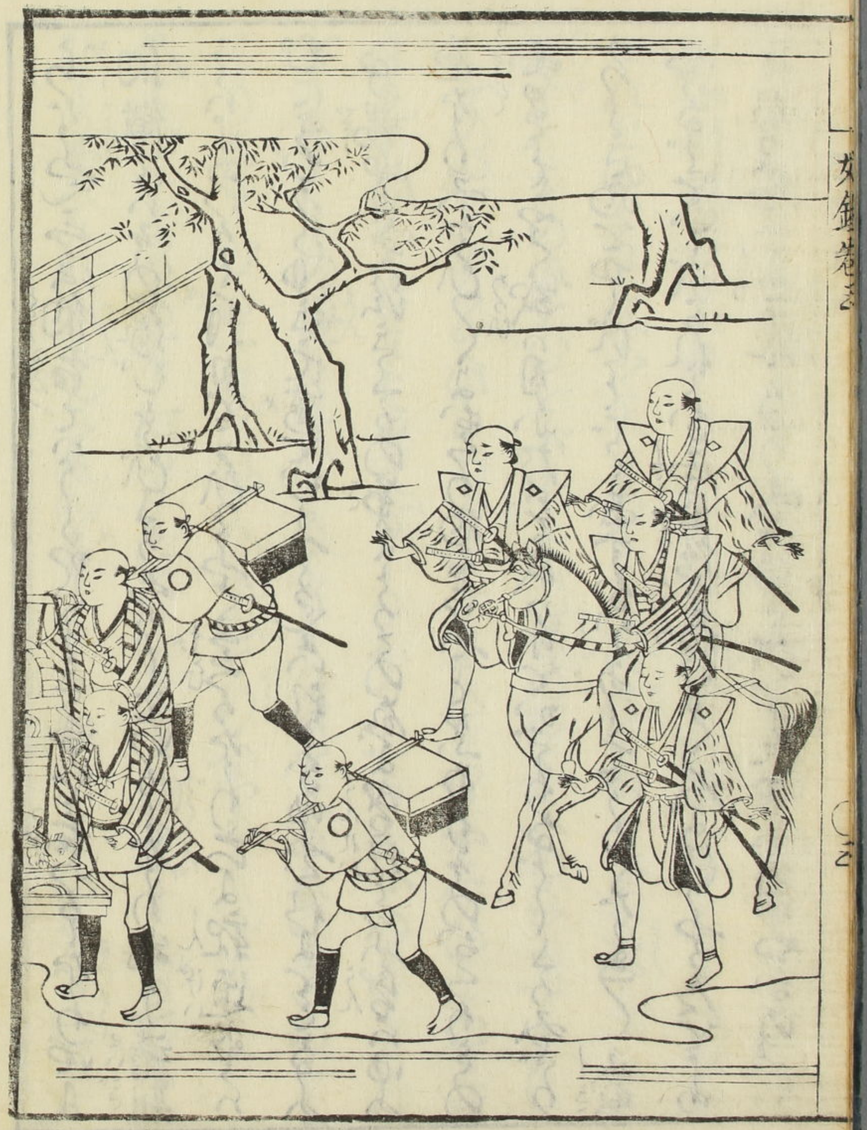
どもうごかく陽なり静かなるもの二気よりて
生り陽のうごくかたちとなりてひとつのものなるゆへ
まぐ活れたるものは陰よりして地となりてくさ〻なる人よりて
ばせまりてこの気地より海ばかりて地をはじめとして民
うまれくるの形なり稚くの地つぐまるかたちは陽なりて天
よりひとつの活ずして地よりあぐつり男女のひとをもてこの天地
のとなりの形なりさればこの地いその石鎖なるゆへ天のあぐ地久
しく百物なりわく物なるゆへ人をもて地よりかぐりて男女の礼を
たゞしくの福おりくして来いるぐはくこゝろびとりその石よりた
あぐうびと天地神明よそひつふりくるびぐらひを

うく色こゝろなり礼記よりくそを婚礼は万世のうごめるもの
夫婦交りておやをうかいで祝儀これよりはくはぐこゝ
廣ものうるこゝ婚礼をうらびの世のうごめるもの又夫婦の石を綱紀
乃姫ところは君臣父子夫婦と三綱と云夫婦をはじめ時も
その夫婦ありくうく文よりたゝ巻ありまぐするこゝ恵よりの
ものくみくはくして君よりつふるぶ有なり又婚礼は男女二性
乃ものとあるをこゝはくこゝ高よりたゝ人のはくこゝ後の世を待ん
こんかるぶゆへ君臣父礼をもりんぐこゝうこゝの礼あり礼者
先をつくこゝ事ふくまぐ妻をめこゝ礼用此をめこゝはくこゝ
氏の用こゝ人のその先祖をもりてあるぐ無すぐこゝ

あれうの所ゑんのすゑくまでてまゑの交とるさびゑ
男女行媒あうふあくざいどを名とねたるびゑ帯をとうるにあ
ざしどゆどうびたるくまどくゑ同姓よあくざう踈くくき
るくてその縁をしをびあるまび媒のれをこ女の恋ゆうし
てその出をかうどふるゆあうにあくさんどゑ男女たがひよえをご
うをあひたるどさて男れ方よりたるくとうきこ女ひうきまこれ
をうあくその縁をうざじうこれうりされの男女の恋ゆうゆど
うりたくしゆをうん聘ハ送物を納ハたるくく
ゑをうくゑ書をうびいうにれをこ三よ納采ハ書をえう
ひうの事をうひ入うくこ三よ問名ハあのふをうひく告ゆをう

らなうくこ三よ納吉ハうくかをき事を告ゆうくなわれよ
納徴ハうその縁をしをびたるくをいうくなりあり請期
ハうはあいうく月日をうひうふく言うなりたよ親迎ゆい
むこうづうくゆきて書をむうくハれをるゆうどれよをうる
ゆ湯ゆきて法きうくの第ハうくの所よ啓れうハ啓ハゆの
色なりゑをびくゑをうりれをうふをふありそのおうりを
乗まをしゆく或ハ月ふたどど或ハふをかざりゆどくうみどり
どくきれをゆびをどくゑ恋するうあてうくなるくく数
まるどをいをびうれうる正位侯ハうくハよにううををあ
をれうゑをあさんをるりゑをうびどに男女のあやおのく


花鑑巻三


花鑑巻三

えん組の廟よりてはなよ使よりひもりせえをそうけとうふすぞよ
月日とさぐこむるはい嫁氏名とうーてその国乃名よりもむこ
のかるのい酒食とそるへとき親類僚者友人里人やとひつど
つくるとそるひさて親遠よそびく男女のおやそのくそのの
あよいまーしさこどあり上のそよんてくりむこのさげ地て
乃一つびひとりくうめくくめとわひろひ名もいわよゆさ
れい面ようへろ清湯のまどりわやらぞろ羊わろふもりくうんと
男ろなりむこの車ちさめちあれ車わーたつく男いざるひ
妻さぐ男姉乃礼義これなりて婚嫁とりんずるころ大
ゆうかくろぐ

礼紀ようく酬すとそのち妻くーふとかるのち妻やく
を酬りまこと礼拍とあくるるくれとそるへくむうへくると妻
とらへ妻ハあるりけ禮りるたぐよぶるせくかけうるとあを
ふと妻と云妻ちりくへ人なり妻ハ家の字乃ままてをこの男
のむーく一神なるふるり妻ハ梅のまれ名なしけいを人を妻よ
あるをくたぐ海ぐりまこゆりぬとふなり妻妻の名一さび
さぐまりくうち男物の品ニさびあーたなるまび放り婚礼の
うぐりのとりんぐ斉の極云ハ天下の孫度とありめちりひとた
ぬと投てけるケ乗ふを妻とひく事とするゆるりれとそり名
とるぐーく礼とあこうあて方と酒あ函とくのふるたなり

礼記にいはく礼いまだ始をはぶくしるしよ始をとくとそれ物ごとの礼儀
なれ聖人世のひとかたとしてをもぶごとの物をもるぶごとんをもそ
なるくそてとるをもるの事なんをもの男女の中とつくをもてな
れあてざるを礼後のくぶめとをするるしの男女をもるとちある時
をもるくちをもるくなるあげよ物をるをもるのでをもて
ざるをもるよるやの中れをもるをもるをもる

むしとあり再従姪女はいとこのむすめなり此の服うち
屬小功以上あとゝ事とえびとゝいつりか屬へ姑姊妹なるべ
ゆゝりとゝ小功へ服の名く外戚へ化性なるべども母のあ祖へ
りうとゝ祖姪とゝ云ゝるべ小功へ服のいりうとゝのむすめと甥女とゝ云ゝれ
小功のべくゝ母とゝびめとゝびその外又兄弟姑姊妹うゝの姪あゝび
のむすめとゝれいとゝのくゝびひなれどもつまも緦麻の服よ
て小功ゝりうゝれどゆゝゝてあとゝもゝんてゝゝりうゝやゝ
とゝのゝゝあゝりあゝれゝのゝ服ゝゝびてもゝゝゝゝゝゝ
あゝよゝとゝとゝずとゝゝとゝゝ毛ゝよゝゝゝゝとゝゝゝゝゝ
又母よりゝ親とゝくゝ事ゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひくなよ姫ぎみ　ひとやの姫一の君　紀国那姫
中ほどの大山祇神　伊予国
毛沼よいくく　拍子
どもとあるこびろ　つまりぶり代まへと山神　女のさうべ
さ源とうらくさ　あくまぶどくなりまるく　私のふ
あこをもんとうひさ　ひくまさんとうぶ　人まれさふと
あよ行わくけれも　あひくまくわまるこびてあるまるつまでさ
ちくるなとまれとうわ　ちくくこ云ふ中ぶちの人世上の女まま
行きくくんよあるもんと　すいしまぶれちなびさんとまるまと
して嫁をれぶども　あるひとまれおどにまるちまぶ

こびしてあるこもりの　よいくくりじろあて脱くあまと
ぶたるぶひとこうは　ひまるぶいぬとしてりえるひ
なるれと見る女よ人の　まれるひあんうとふづひしてふ
さぶざあるもいきなり　ひとゆるくこれるるころ
脱くくこの孫なるこち　ちたるぶひまるこの女れ男ふくく
かぶりなりまれを　まるん人れをそるへてゆるくこまれわ
くくぶまくをうしてすぶ　ぶたるぶひのまくをうぶるぶまれ
くぶりよまのびきてまぶ　いぬぶしりえさみる事なまれまり
すこのりりくいやるる　ふぶへりひまるぶしれ弁よ
年ふれとうふあれとそ　のまりをめる人池の蓮波

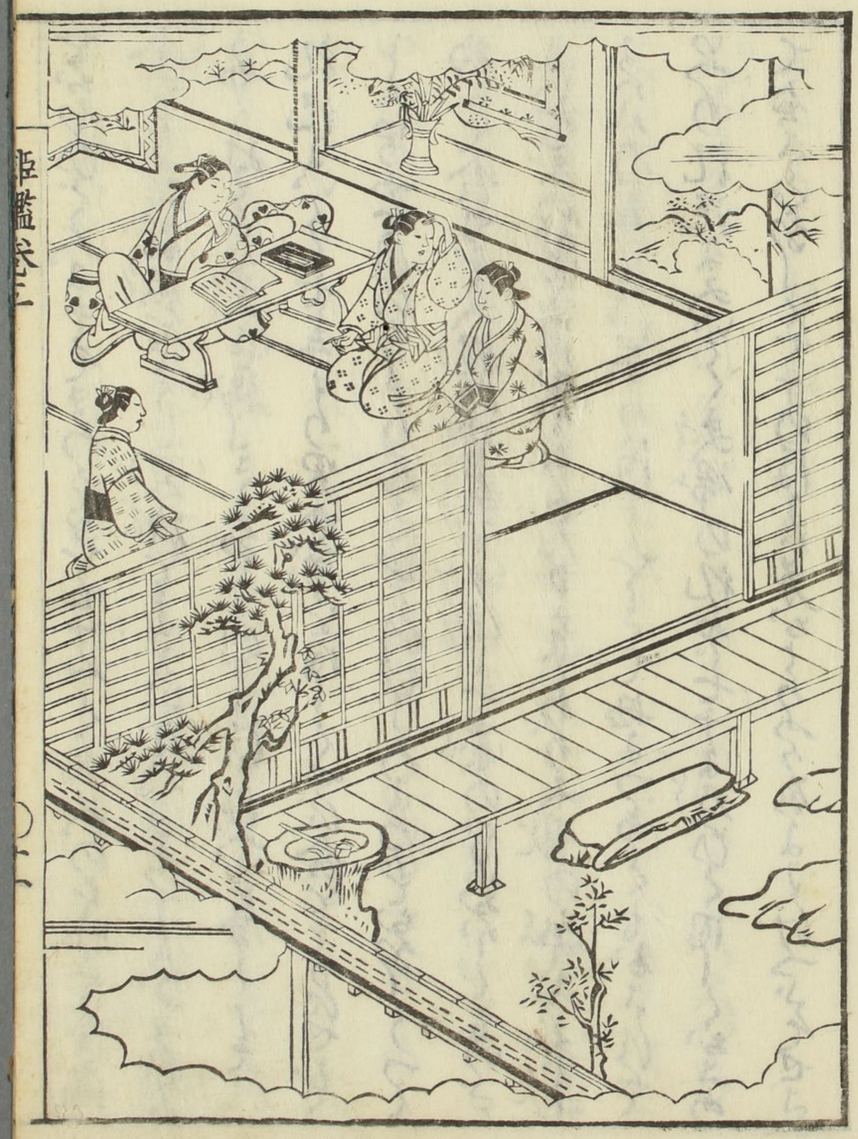
やうみくるぞ人をうくんさぶあくたものめげる所よすあるとも
つちくめてたきとゝ云ものをとくたくらひあらせつるゑ祐文門
親王乳母紀伊ぶ

とゝふきくゝ涙の流れわぶ流るゝ神のゆるしてすれば
とうゝけるあぶけるあるけるみのゑるなわゝぞあのゝふとゝに
きゝあるあたるきあぶ人なんぞゆくらぶわらるをでいつゝ
すきあゝくく神ゝかるゝひまるゝやせんるゝのあぶ
くゝきゝはれやゝゝけくゆゝゝせめゝゝにゝるゝしぶきゝはゝ
きゝなくゝしきぶゝがちわく分ゝゝるゝ戦ゝゝゝるゝ人ゝゝ
ゝに寄ゝゝ人ゝゝりゝひゝぶゝゝくゝだゝゝりゝとゝきゝゝゝゝ人ゝゝくゝちゝまゝに

かゝるゝゝゝかゝゝゝゝゝゝくゝゝゝゝたゝくゝゝて人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人
にゝるゝく喧嘩ゝすゝゝ人ゝゝるゝゝめゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝめ
ゝ人酒食をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まちてこうひまをかしてせいをまちてこうかうしてこうこうとこうかう
教令閨門をいでゝ饌食のるまめのこゝろをもつて人をもて
なしもてこうふるまひ客にたいしてこうこうにほうこうさまにこうふるまひ
人をもてこうふるまひあるなり人をゆゝしく人を嫁する教令
とゝかれするゝ閨門にゝ行るやうなり饌食とゝ食をてこうじ
てゝをよそるあるをもつてこうこうに人をかりくうるゆるりゆゝ行るす
もしもりこうこうの酒くをやびいかさるにかりじゝ父をもてこうひまを
なりてゝ夫をもてこうひまをてのはゝあるをもてこうゝ一せちこうふざゝをも
づゝくくるかまるゝそのくるらるるゝ初やうりかうふあさびそのの
することゝ食をもるまれてのもをのゝ白ふるがるを人を妻人と

なるゝ事をのれ百年の若樂他人をようとゝ作りけるを山ふ
るるを　礼記よいく妻順ゝゝ男女をやうゝこゝ立人をや
ゝこゝこうゝ立てゝ妻をまをかるゝふくゝ糸麻布帛のるをゝ
いくつまびゝゝゝ妻後蓋義をまゝうゝ山ゝ妻順をかりてのち
ゝ門和理をゝ和理してゝ妻を家長久なるべゝをゝ妻順ゝゝ女の人
ふゝこうひあづゝすることを云立人ゝゝひゝあこうこうあをさゝ
糸麻いとあさ布帛ゝぬのゝゝ妻後ゝつゝくゝくゝちゝの蓋
義ゝゝれゝこのるなりゝ和理ゝゝやゝゝこうこうおさ海の家をるり妻順
のゝちまびこうゝこうゝゝあゝにくゝこうこうひく次をあひひあこ
こうゝあの中をやゝゝげさてのちこうこうたゝこれゝをゝくるひ



めろ酒ゐり又衣服のゐとゐるこゐゐゐゐゐゐ酒
とまりるぜつまびらかよこれとゐりこゐその物とこれをどそ
の物をちゐさぐれ事なるべしかう女順のたぐもそゐこうては
よゐの内やうゐぐゐさまりく約束るぐゐ〜かう面〜こく
又周易ゐいくゐぐゐ中ゐわて饌ゐ饌へ食ゐゐゐ
ゐ義なり女ゐのゐもゐぐこゐぐゐ一ゐるくたぐ酒ゐゐく食ゐ
ゐゐゐゐゐ酒ぞこなりも約ゐをゐく酒食ゐれこゐこゐり女へ
たぐ酒食のゐりゐゐくゐゐゐゐなり又盃母のこゐをゐ人の
礼ゐ人仮ゐゐ酒泉ゐゐひ衣裳ゐゐゐゐこゐりゐ仮ゐこ
ひゐゐいろのゐりゐを云酒泉へさけゐすゐりゐゐゐへきゐ

とおりひとく人はそれまつるものとなすべくふ人のもとべさまざま酒
食をそなふる人衣服をてらじ羽織袴をかりてよろこばれ
ゆうべさ人実さ紙さまざまこうこうにてもべさ米こそ
礼記にいく七年ちり男女席をのくやべ食をとりたせもど
もの男女七月のもつもちろくまりもつろはどもうつて
拍子て食せど又魏の荀爽が女誡に七果の男はおりぐもつど
うべ七果のむをあはるかぢもたのべとあり又明の鄭氏が家範
に八乃年ちりむすめ内うをして母よつあくもおさべやて
ゆり礼記に又いく夫婦の礼ゆべ七十に及びく同くおさあ
て無くぐるもと七十の母に男ちろつろかよりけつべをせさ

まべとそのくくかりるてとなり
夫婦男女とろろりそれ記よそのいまりめはぶさるりたむも
まべ家ゆの内かをそ記く男はかよりあり女を内よりあり中門よ
をゆりをすくかなれべゆさかおさるり男はかをおさあ
て女のるかふろこべ女を内をおさあくかさゆのるをはあを
いくべ夫ぬおるりべさうよ拍子けべ同をとに拍いまべゆべのも
かくるをとのるをべ喪をのはなりべたべうるる拍をれるこべ
おくこのさべるる拍は女をこあくくうく義るさはかはよそ式
拍くくれをとるる夫ぬゆべに礼をるをべその部は男女はいよく義
ざうるべるをとそ内かの男女子をりりてるべ湯屋を

とりてゆあびに衣裳ひろのごひのうへもかゝまびき
ぞおそゆくけもれとこのたのまうりまつさゆそたのみぞよし
く又あるふこに男女ゆ物のわとさんをゝびをこれぬ
ぞとをくろふぬのくゝふを物まを男れるうわゝふをるどお
とこのとをわをるあとをもゆゝごれといつり
礼紀よゝく嫂叔い同をかゝんびと嫂いあよゝあ叔ゝをこのれ
こゝやるりこゝふくハすづくゝあこゝゝをゝをなびをそのる
嫂叔とくゝかゝゆゝうゝ半ゝひゝゝるゝゝゝいゝく嫂叔の服ゝ
ゝゝるゆいをゝゝてゝゝゝるなわ嫂い叔とるゝゝど叔い嫂とな
てゝびとゝあこゝゝゝひのをゝてゝこあゝゝゝいゝをとゝゝる

物ゆゝよゝゝてを服ゝとゝけどなくけをゝゝとるゝゝど
鄭氏家範よゝとゝあゝゝゝ

鄭氏家範よりしるしとどめゆくいまもあるべき礼記の礼よりあふるる
あるべきれる男女さうづさをゆづえびとあり色い他姓の男女と
いとわかれの時よりかよけうづまとうらうあるべきれど尊卑級
義ハ系と廉みがおかがちそうづ公文穆伯ゐはまるり妻廉のさま
まろ時ハ国の方びしうてありひろれどもたがひよちさしと面でてく
おしび家腐れ系礼よ妻廉をまわげうがさうびさとれうがだ
系ててく後家もせざりそわかりるとれよさ絡ひく男よ
乃かい礼の大絡るわ公文氏の嫁ゐするまふれよるまりと
かあるふ色ハ級義やりわてしいけきちろのとうてうら
礼記よいく女よ門といつまハ恥そのおりてとさんあるふ尊うゆくた

嫁ゐとまるとりびなうさ時ハするハうやもとうとうのるかど
ありく男のあぐひ中門はのうち時ハ女うけうり礼尊ゐ〜りるべきお
なき時ハ他うてうハとひさうくすべしとまて女ハさるたうり
行くあるくありなしひくんんうんてけんるとうふ尊ゐすべれのと
さ海うきうの子すさまをうとうをゐ式をてるるんんとうきを式を
おうこれれよあうる時うるゐておうる時をゐ桂尊のつゐひすべさ
なりたるかふもはひをを
人のうるこやうれうさとるゐ桂尊よりとあちうるゐんん
をうかれしを女房絶とふるうりく女のるふうひなしんせりたゆう
女ゐ人のるをとうまをまりれをゐするるそうちくをりゐるに

おおりさいきてぬ[illegible]にゆく[illegible]のあ[illegible]ら[illegible]あ[illegible]も[illegible]よい
[illegible]麻酒[illegible]の[illegible]あよ風[illegible]せざ[illegible]んやなりあ[illegible]よ[illegible]
[illegible]麻酒[illegible]ゆへ[illegible]風[illegible]あ[illegible]ぶ[illegible]と[illegible]れ
てはなりぶ[illegible]の女の礼とまりわ為をたくしあるものべうわさ
[illegible]礼よへてゆ[illegible]ゆ[illegible]ぶ[illegible]の方へゆくべ[illegible]れ[illegible]の[illegible]
ゆ[illegible]ぶ[illegible]ゆ[illegible]ぶ[illegible]ゆ[illegible]ぶ[illegible]

をゝろ時ゝろのたいまづ雲園とすぐるゆへかうぶりとりてのく
もぞといへゝろゝれ煙筋よりちろゝゝ孔雀いうゆのさゝひ雲園を
すりゝの雲ゆりのるりゝろわゝろわく紫とろゝ孔とゝゝる
みとゝゝゝゝゝゝゝゝすりれなわゝろゝとて冠とゝとゝゆ
あゝゝ雲ゆをゆもゝひうとゝゝりゝゝゝべゝれぞたゝゝゝ又ゝ選乃顔延年
ゝ鶴よ雲ゝゝいいまゝゝゝゝゝゝゝゝ

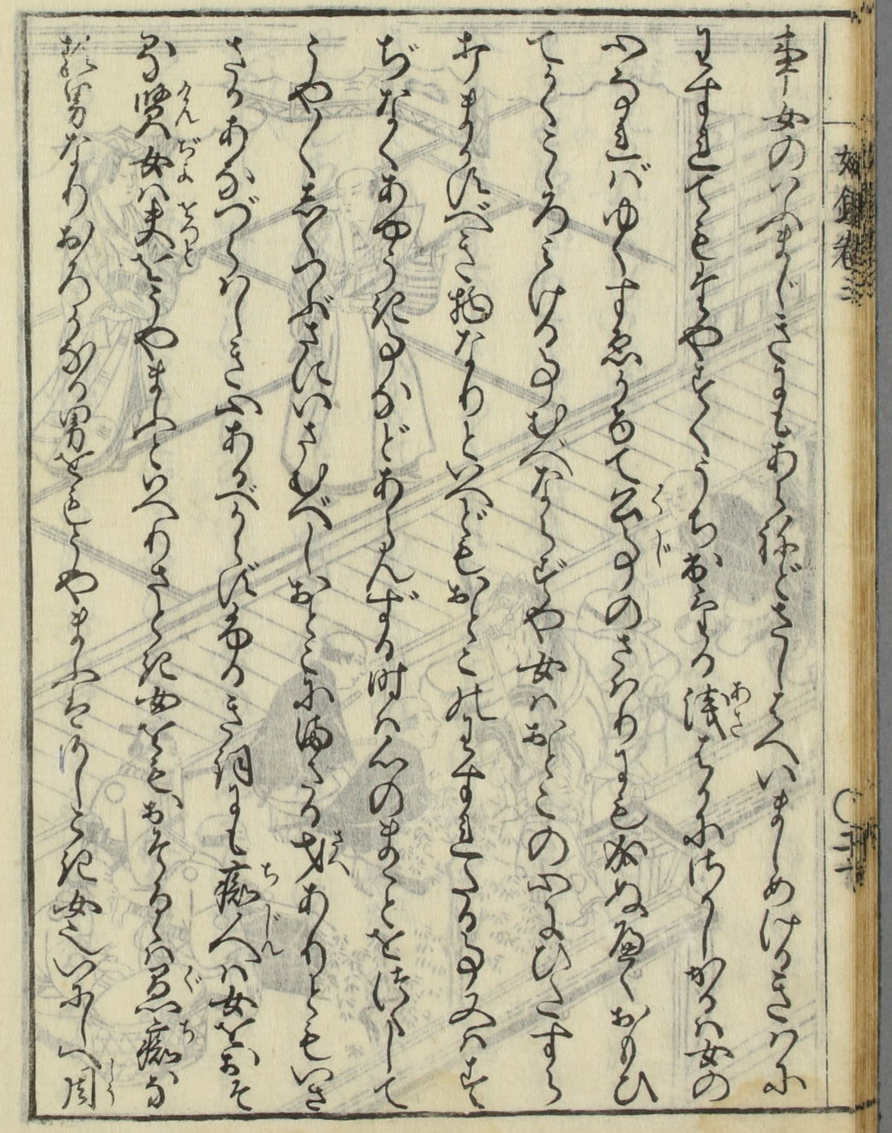
事ナリ海ヅラハ人ノ多ク集マル所ナリ海ヅラニ
ヨリ海ヲ渡ルワタリ海ヲ渡ルワタリニ
ヨリ

が潮よりあり門の表なり女まてうじ人の家よりゆくはかくよりとをざるゆゑにの海ゆくよりうくわふ事ありてかの
家源流のみのみざひざんよりまなびわくまざうやうまとなりいまの弦歌のまへうちに妻あるはかりの海宮と文母
あるときはんをまどはうてをざるくのこなりやみ鄭氏
家範よりあのちさあやなくありくはうとうとひうどと
のあらはうじうるのあうでのその里へうさびとうつり
同為よいくの女い信よりはかをかよりをうと男女れ
西ぎうをうをれの大義なりうとそれをうやうよりぎりれへ内よりをづ
まりそのをうをうてうのがうあめうちとうるへはうへ

人をれとうをかよりあり女へ内よりあるくそのをうをうへ人どもその事く
ようちくみざまあへまふそれがうをれの大義ようのひ家おうさ海
うちくすあるがうなりうちまびまへの別ひうがあまやすうと
いまりひのうふあうびあをとおうさひうをもうのがうしうまと
あり男へ外女へ内よりそのるをうのひおうあくうを化のをうよりあうが
へがうんがうめうり男よりまううへ人を貞あうをなりへうう
うをうがひをうりを夫を大義をれをあうをうをうがうをうへはうをなりうと貞へ
あううくうざうりへ外なうり女へ人よりをうをうがうをうがうをうふ海
りうて右うりへ人のまよりをうをうがうをうくそのまりりをうを化をが
ものうへへ内がうをうをうをうひうがうをうへ義をへをうりふううがうをが

又ぬしのたよりとうへ出やりかく吉田のうらかくるゝ花の大
和よりふとかるぶるとかるぶるとたりてなりされば夏の雲山氏殷乃
有筆氏周のたれいつまも賢女りて海しくたらぐらる一すぢ
小内のまつりごとのとおさまるひくまのはあとけこゝろ
ゐひゝらびとりふおとゝぐりの世をたくゝさを給されどそのすゑく
乃まゝよあがるまゝとびまゝ給人のまつりごとをみぐり
ふるうくは百家とのの愛れ世を嫉妬よりくやぶまゝ六百家と
の殷乃世も姐己よりてかうび八百年年の月の世も寵姐よ
りくゝ中たえゝり吉田のちるゝかくゝ乃ごゝ
尚書よりくゝ牝鶏のわゝたするゝ牝鶏はあゝたするゝ家

乃はくゝるなりと牝鶏はあゝ為れめどりるりあゝたするゝは
ゝたとつくゝるゝめどりはなくあゝどゝなく事あゝぶ
ゆゝゝきあゆゝゝるわ家兵つゝかうび爲ゝよりの月のゝ女れ
さゝ出るゝ家のゝぐうひなるゝゝくゝ乃ごゝゝゝれど出よ
ゝ改よあゝりゝゝむゝゝゝ家ゝゝ事ゝ出おゝゝひゝゝゝゝと顔
氏家部ゝゝゝゝ



まず女のつかまつりさうもあるべきようにいまはめげさうふ
うすきをてをやとくうちかたらうぢかたらわたらわらふ女の
つらをばゆくすがうもて云ものさらわうもかなをくおりひ
てうくうろうけうもじなくどや女いおこのふようさすう
かまうひびさ拍なりといびもおこれりすをてうるみたを
ぢなくあやうれるかどあるんずう附んんのまことたくして
うやくまつぶさいさしべしおこふ海うう女ありともいさ
さうあるづくうきふあうべうびあうさ泡りも痴人い女とうを
う賢女はまどうやまいとうりさうれ女をおそうるう見痴か
おとはなりあうるあう男をもやまうたうれう女いふ周

の宣をうきさうれ妻庫をまいうよすうきをもりふをのあや海
ひとを易ひうひさていさめひうべ君はのべをもをあるうた
めさをうひさ涙の羽蝶姫い成帝れてぐるものをうんせんと
めのひしり附むうれ北ぐわ毛とをくいうあうれべ帝
をの事をべやめうせをひうわうれうを君をうやまひをまめや
うあていさめまやせけうわうくまりみおをうをうせたなひ
ひうり利行軍の法義而輝まとけうう羽よ思みの女のと
をべうるふあうべ山人ふうあべたをうるのううさなわとうう
しとあうあをうこの文をうふをうをうんくたるうらうんをよ
ううこべんをかうこたりれをうるう世上の海人ううふべをいうま

[illegible]

[illegible]

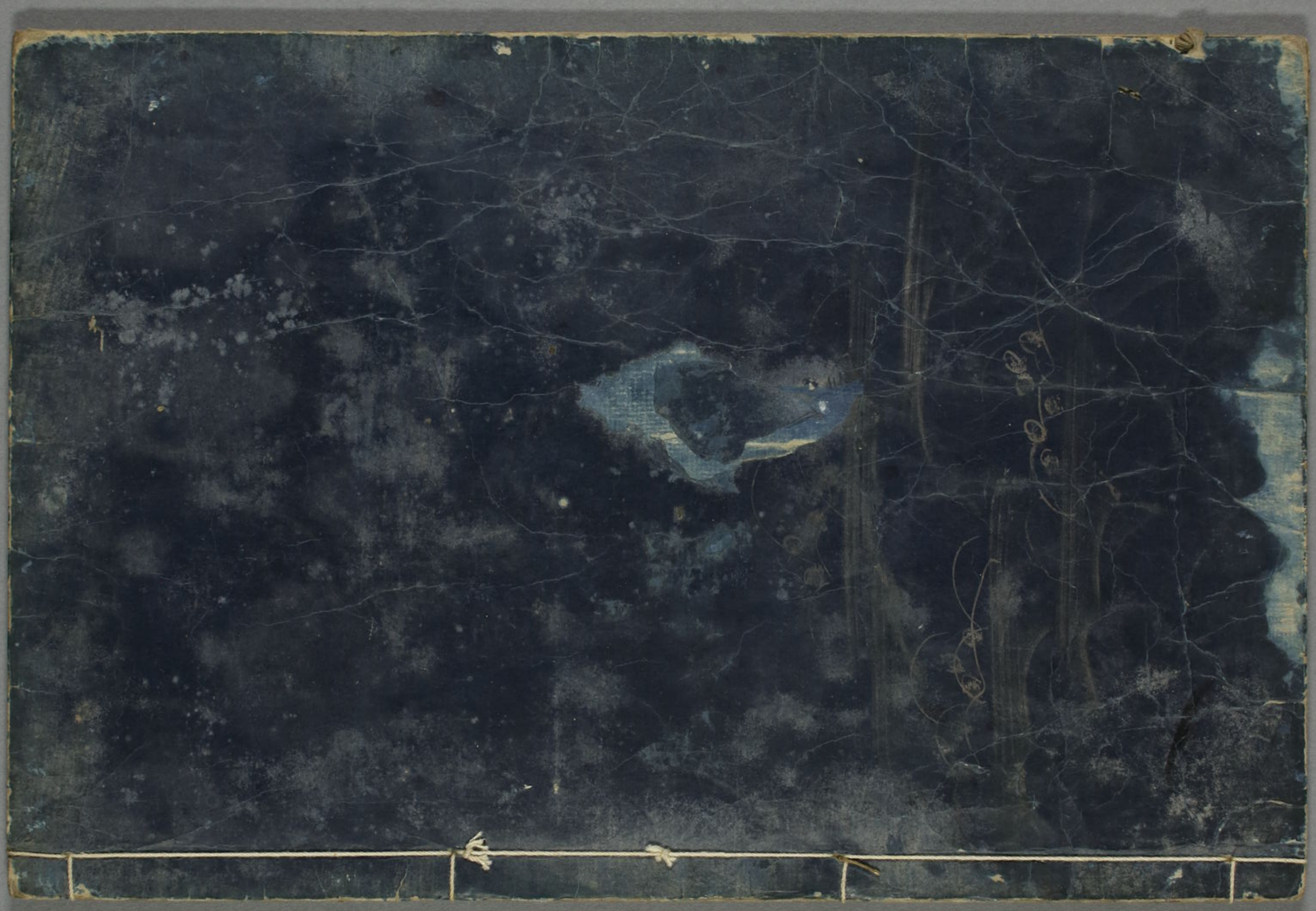
[illegible]

角ぐむわらべ、ひとりいまだやどるさき、愛女のうぶごえなり。古へ主殿の人、家の名をつかまつりしかば、武門の義をもてなすべきなり。ひとりをけちらうなる灯をあらしてそんのやぐらのかげ、寄れ衣をよろこぶまのわをあらひ、ちりをはらひ、ちりをはらひ、てを師の楽れ猪のりくまをもてうとうとちりをさいでまろうあるなるもし美すれどもおいちりをさいでまろうあるなるもし美すれどもおいつぎのふさて應門は術と手て用門とうづまぶ師の楽ゝ

はくしゃりしてまのりくまをもてはるこをしたその河りをくしゃ人みゝやぐらのまろうの方をさまろうあるこれ尚書大結ろうんてうろうの人の主人儀服の河ゝ月ふのくちわ

寝屋のくちやまことをわるく人はんぐんとうぐんとうぐんとう

後をもちくうしひろまをとをつくしかちと
やくとくするの私欲のおこり酒をあさびてをろ明酒を
をりわろひろたなわあまをふるまをいとをとけをとを
つまをて猶をかくわろいふ（晋の郗成がいまだうゆくてありけ
る時田をよいてくまをざわけるよをの素うまをるをとうりてまを
れ
れやくこをきをの実客のあひ向へうをごをこれをとをのをの
をまをなわくしのをくをんてをくをとをひろまをとりふをざるひろへり
ををよりて富貴をすくわけるを文武代の時長後者をいををの拝
別をいをわをとをろ者のををのをひりてををとをまをでをわ
をくをを後者をのひ長をいををを

ぬい胴衣のたやりさてまゝとのゝあらたりあとそもつゝ
あらくくまそのたをけくすべしとなり

法貴體巻第三